



ふるさと交流館で博物館実習しました！

計4名の実習生が8月7日から9月1日にかけて各人5～10日間ずつ、ふるさと交流館や札天山収蔵館をはじめ町内外をフィールドに、歴史民俗、自然史、美術などの分野で学芸員を目指す実習を行いました。資料調査や梱包、野外採集、解剖及び標本作製、来館者対応など、お互いに教え合って和気あいあいと活動しました。

各所でご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。詳細内容は実習生のコメントと写真からご覧ください。

内山 小優梨 (静岡県出身)
都留文科大学 (山梨県) 地域社会学科3年



解説を聴き、梱包

母村の岐阜・高鷲に送り
展示されています

自然豊かなフィールドでの調査と北海道らしい内容を期待していました。実習内容のうち、草木染めのワークショップと開拓馬橋の模型の梱包が印象に残っています。

エゾシカの解剖、開拓の歴史を深く学べるなど、北海道ならではの体験をすることができて、非常に勉強になりました。



どんちゃん神輿を担ぎ、餅撒きも体験
(写真提供:しもかわ観光協会)

(写真提供:たかす開拓記念館)

岩瀬 拓磨 (埼玉県出身)
帝京科学大学 (山梨県) アニマルサイエンス学科4年



駆除した
オオキンケイギクの
花を染料として活用
した講座



印象に残っている内容としては、札天山収蔵館を見学し町民の方々と意見交換したことです。下川町に残された文化資料が今後どのような道を辿るのかは町民の皆様の考え次第です。外の街から来た僕らとはギャップがあり、それを踏まえて意見を聞いたのは興味深いものでありました。僕自身はあまり良い意見を出すことは出来なかったのですが、これは下川町以外の市町村にもつながる事態であり、町民や市民における資料の優先度を上げるためにはどのようにすればいいのか改めて考えるきっかけになりました。



下川リンリン倶楽部の皆さんと意見交換

長谷川 雅 (東京都出身)
青山学院大学 (東京都) 総合文化政策学科4年

都内ではない場所の文化政策について学ぶことを期待していました。

最も印象的だった実習は、アライグマの皮のなめし作業です。自然に触れる機会が多く、貴重な経験ができたと感じています。来館者対応も経験でき、有意義な実習となりました。



鳥獣対策支援員の方々に
もご協力いただきました

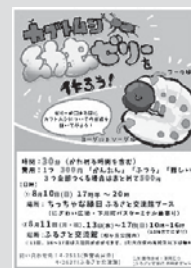


澤田 若奈 (札幌市出身)
北翔大学 (江別市) 芸術学科4年

自身の分野以外の学び、学芸員の現場での仕事の体験ができることを期待して実習先を選びました。

最も印象的だった内容は8/10の「ちっちゃな縁日」出店です。地元の子供達や町民の皆さんとお話しながら下川町の雰囲気を感じました。

下川町についての歴史や町民の皆さんとの交流がとて楽しく、温かい素敵な町と感じました。実習内容も多岐に回り、多くの経験値を得ることができて大きな学びとなりました。



制作した告知ポスター
をスマホ役場で配信



町内の名寄川で採集

